Pioneer sound.vision.soul

取扱説明書

S-HS22

スピーカーシステム

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意　付属の「安全上のご注意」もお読みください

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

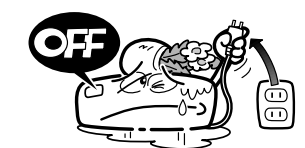
●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

〔異常時の処置〕

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

プラグを抜け

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

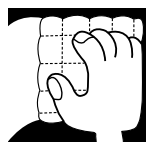
● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

ご使用の前に

このスピーカーシステムの公称インピーダンスは、８Ω（オーム）です。負荷インピーダンスが４～１６Ωのアンプ(スピーカー出力端子に４～１６Ωの表示があるもの)へ接続してお使いください。

スピーカーを過大入力による破損から守るため下記の注意事項をお守りください。

- 許容入力以上の入力を入れない。
- ピンプラグの抜き差し時はアンプの電源をOFFにする。
- グラフィックイコライザーで高音を大幅に増強する場合、音量を上げ過ぎない。
- 小出力アンプで無理に大きな音を出さない(アンプの高調波歪が増え、スピーカーを破損することがあります)。

お手入れについて

通常は、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は化学ぞうきん等に付属の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

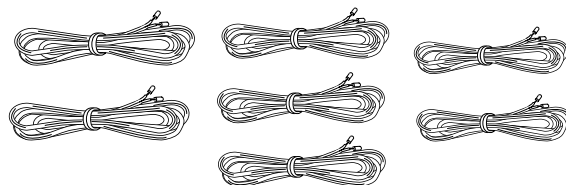
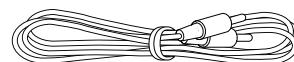
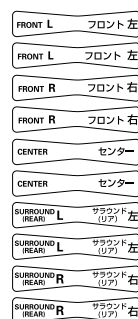
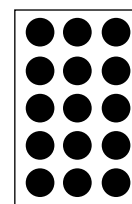
楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞などには特に気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

特　長

■ 手軽に本格的なサウンドが楽しめる5.1チャンネルスピーカーシステム（フロント/リアスピーカーX4、センタースピーカーX1、パワードサブウーファーX1）
■ ダイナミックレンジの大きいドルビーデジタル＊サラウンドなどの映画ソフト再生に追従する100 Wのハイパワー（サブウーファー部）。
■ 16 cmウーファー搭載（サブウーファー部）。
■ ターンオーバー周波数連続可変(50～200 Hz）。
■ 位相切り換えスイッチ搭載（0°/180°）。
■ 入力信号の無い状態が約8分間以上続くと、自動的に出力アンプをスタンバイ状態（省エネ）にする、オートパワーオン/オフ機能搭載。
■ 省エネルギー設計製品
本製品はスタンバイ消費電力を1 Wに抑えた設計となっています。
■ アンプのスピーカー端子に接続する入力と、サブウーファー用プリアウト端子に接続する入力の2系統。

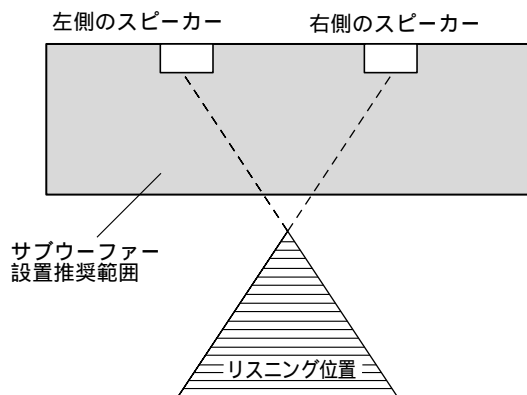
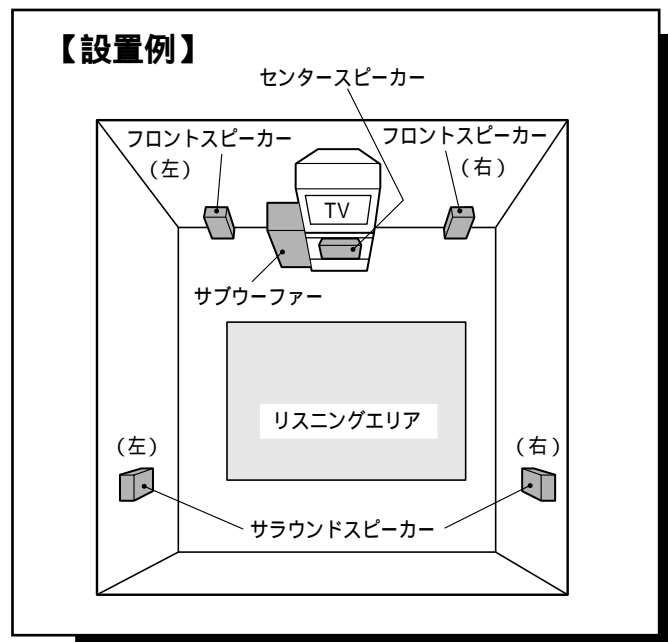
＊ DOLBY、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

付属品の確認

● スピーカーコード × 7
(10m × 2、5m × 3、3m × 2)

● RCAピンコード × 1

● コードラベル

● 滑り止めパット

● 取扱説明書
● 安全上のご注意
● 保証書
● ご相談窓口・修理窓口のご案内

設置

スピーカーの設置

サブウーファーは、人間の耳が低音域において方向感覚が無くなることを利用し、重低音をモノラルで再生します。方向感覚が無くなるため、設置場所は、かなり自由になりますが、あまり離れた場所に置くと左右のスピーカーとの音のつながりが不自然になる場合があります。

サラウンド効果を最大限に発揮させるため、下図のようなスピーカーの設置をおすすめします。

- 左右のスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- サラウンド（リア）スピーカーはリスナーの真横または少し後方で、耳の位置から約1m位上方に水平方向に設置すると効果的です。

設置上の注意

本機を設置する場合は、放熱を良くするため他の機器や壁などから十分な間隔をとってください(天面25cm以上、後面10cm以上、右側、左側各10cm以上)。また前側より5cm以上奥に押し込まないでください。本機と壁および他の機器との間隔がとれないと、内部に熱がこもり、性能不良または故障の原因になります。

次のような場所には設置しないでください

- ⃠ 直射日光を受けたりする場所、暖房器具に近い場所。
- ⃠ 風通しが悪く、湿気やホコリの多い場所。
- ⃠ 振動や傾斜のある、不安定な場所。
- ⃠ アルコール類やスプレー式の殺虫剤など、引火性のものを使用する場所。
- ⃠ テレビやモニターなどの上。
- ⃠ カセットデッキなど、磁界に影響される機器のそば。

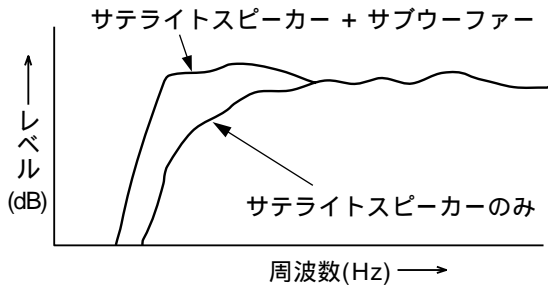
ご注意

- センタースピーカー、フロント・サラウンドスピーカーをテレビの上に乗せる時は、安全に設置できることを確認してください。もし安定しない場合は、テレビの上に乗せないでください。
- 本機は、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステムですが、設置のしかたによっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能より、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーシステムをテレビからさらに離してご使用ください。
- 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

⃠ チューナーのアンテナケーブルから離して設置してください。

近くに置いた場合に雑音が出ることがあります。このようなときはアンテナやアンテナケーブルから本機を離してご使用になるか、やむを得ない場合は本機の電源を切ってください。

スピーカーシステムとの組み合せ

- サブウーファーと小型スピーカーシステムを組み合せると、下図の様な特性が得られ、低音域が増強されます。

- ドルビーデジタル*の再生においては、サブウーファーの専用再生チャンネルの設定を推奨しており、特にLFE（Low Frequency Effect=映画などの迫力を増すための地鳴りの様な効果音）の再生に対してS-W22は有効です。

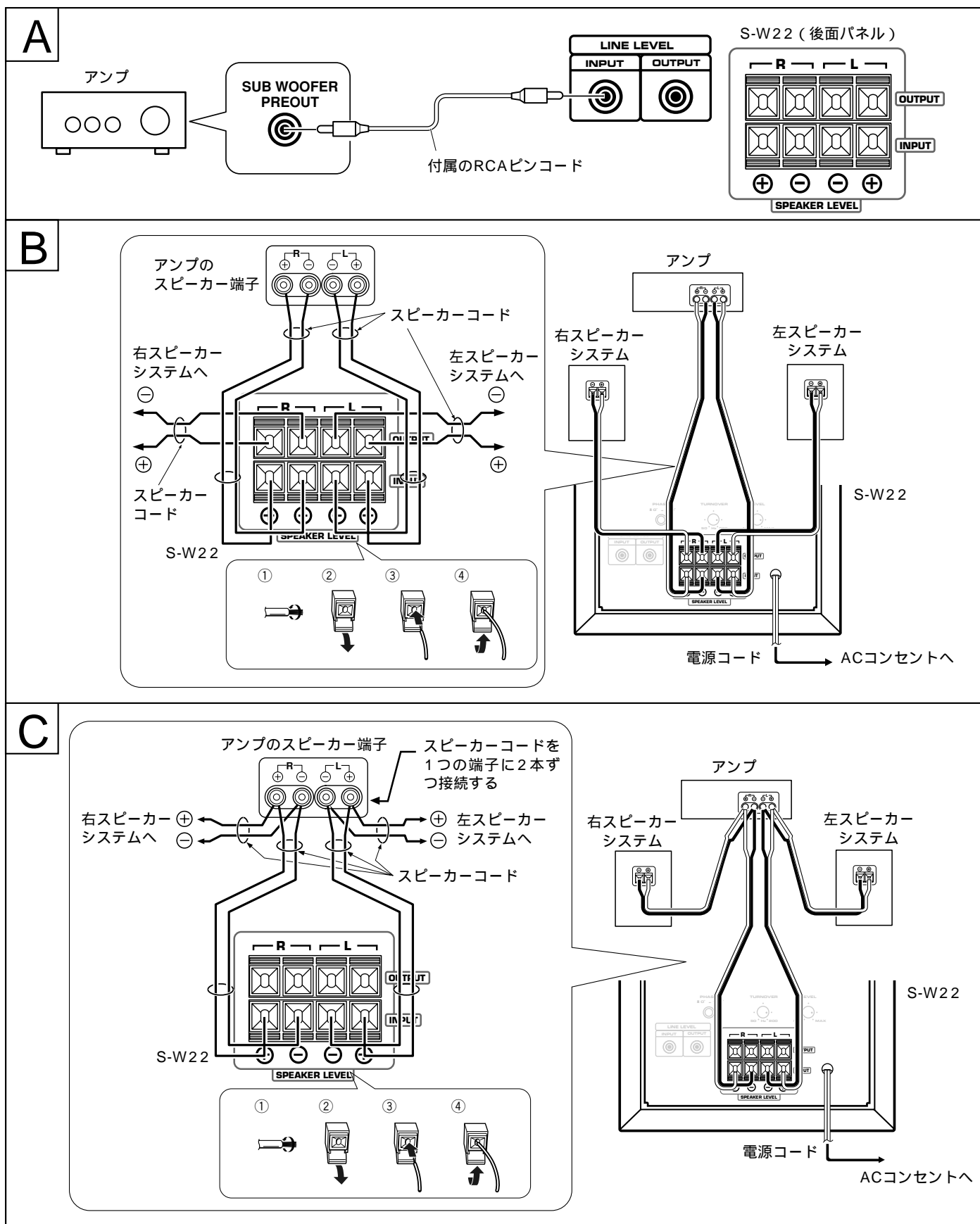
＊ドルビーデジタルについて

ドルビーデジタルは、ドルビーサラウンドからドルビープロロジックサラウンドと継続して発展してきたドルビーサラウンドのマルチチャンネル、デジタルシステムの名称です。

ドルビーデジタルは5.1チャンネルシステムとも呼ばれます。20Hz〜20kHzまでの周波数範囲を持つ5チャンネル（フロント左、右、センター、リア左、右）と、独立したサブウーファー用チャンネルを持っているためです。サブウーファー用チャンネルは、LFE(Low Frequency Effect)とも呼ばれています。

LFEチャンネルは、迫力ある低音を楽しみたいときに好みに合わせて使用するチャンネルとしています。

接続のしかた (サブウーファー S-W22)

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

ラインレベルの接続（図 A）

アンプにサブウーファー用のプリアウト端子がある場合の接続です（この端子が無い場合は「スピーカーレベルの接続」を参照してください）。
付属のRCAピンコードで、本機のLINE LEVEL INPUT端子と接続します。

ご注意

アンプのサラウンド・センターチャンネル用のプリアウト端子と接続すると、センターチャンネルのみの低音となり、十分な低音が得られません。

スピーカーレベルの接続（図 B、C）

アンプのスピーカー端子を使う接続です。

ご注意

- 本機の電源を切る前に、アンプの電源を切るとショック音を発生することがあります。その時はサブウーファーの音量を下げるか、本機の電源を切ってください。または、アンプに電源スイッチ連動コンセントがある場合は本機の電源コードを接続してください。
- 「スピーカーレベルの接続」では、サブウーファーの音量を非常に大きく設定した場合、アンプの電源を切ったり、スピーカースイッチをオフにするとハウリングを起こすことがあります。これを防止するには、本機の電源コードをアンプの電源スイッチ連動コンセントに接続してください。連動コンセントが無い場合は、サブウーファーの音量を下げるか、アンプの電源を切る前に、本機の電源を切ってください。また、本機を大音量で使用しているときアンプのスピーカースイッチをオフにしないでください。
- アンプ側で低音を増強するのは避けてください。アンプの出力に余裕がないと、音が歪みやすくなります。低音は本機で調節してください。
- LINE LEVEL INPUT端子を接続すると、SPEAKER LEVEL INPUT端子は使用できません。

スピーカーレベルの接続には2通りの方法があります。

方法1（図 B）

アンプのスピーカー端子と左右のスピーカーの接続の間に本機を入れる方法です。

1. 本機のSPEAKER LEVEL INPUT端子とアンプのスピーカー端子を付属のスピーカーコードまたはステレオシステムのスピーカーコードで接続します。
- L (+)、L (−)、R (+)、R (−)の表示に合わせて接続してください。

2. 本機のSPEAKER LEVEL OUTPUT端子と左右のスピーカーシステムの端子をステレオシステムのスピーカーコードまたは付属のスピーカーコードで接続します。
- L (+)、L (−)、R (+)、R (−)の表示に合わせて接続してください。

方法2（図 C）

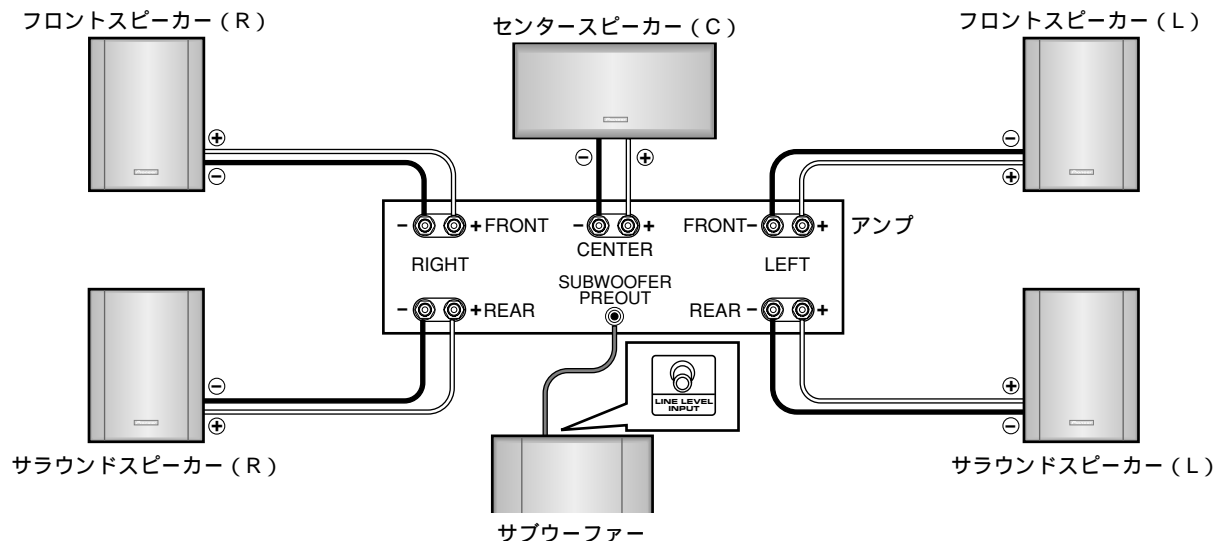
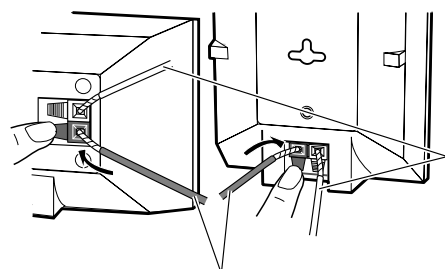
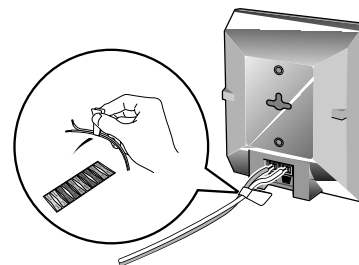
アンプのスピーカー端子に左右のスピーカーの接続と同時に本機を接続する方法です。

1. 左右のスピーカーシステムからのスピーカーコードと本機に付属のスピーカーコードの一端の芯線をたばね、アンプのスピーカー端子に接続します。

2. 付属のスピーカーコードの両端を本機のSPEAKER LEVEL INPUT端子と接続します。
- L (+)、L (−)、R ((+)、R (−)の表示に合わせて接続してください。
- 本機のSPEAKER LEVEL OUTPUT端子は使用しません。

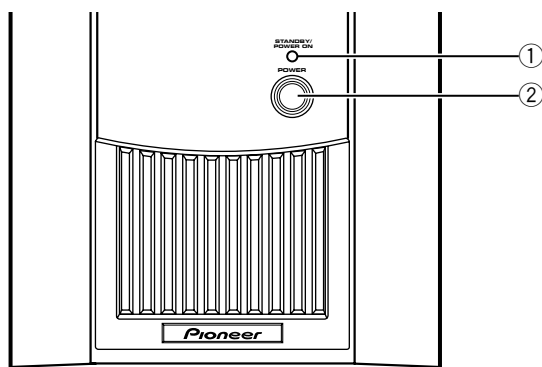
ご注意

アンプに2組のスピーカー端子(A, B)がある場合、本機を空いている端子に接続して、スピーカースイッチで“A + B”を選択する方法があります。ただし、使用するアンプによっては左右のスピーカーから音が出なくなることがあります（スピーカースイッチで“A + B”を選択したとき、AとBが直列接続になる構造のアンプの場合）。

アンプとの接続 (センタースピーカー、フロント・サラウンドスピーカー)

1. アンプの電源スイッチを切ってください。(POWER OFF)
2. スピーカーシステムの入力端子とアンプのスピーカー出力端子を付属スピーカーコードでつなぎます。⊕端子はライン入りコードで、⊖端子はライン無しコードでつなぎます。

スピーカーコードの両端に、付属のコードラベルを貼っておくと接続先の識別が容易にできて便利です。

- 端子に接続した後コードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確かめてください。不完全な接続は、音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。
- コードの芯線がはみ出して、芯線どうしがふれたりするとアンプに過大な負荷が加わって動作が停止したり、故障することがあります。
- アンプへ接続したときに、片方(右または左)のスピーカーシステムの極性(＋、－)を間違ってつないだ場合、正常なステレオ効果が得られなくなります。

各部の名称と使い方

前面パネル

① **パワーインジケーター(STANDBY/POWER ON)**
電源をオンにすると緑に点灯します。信号入力の無い状態が約8分以上続くと、オートパワーオン/オフ機能により自動的にスタンバイ状態になり、インジケーターが赤く点灯します。ふたたび信号入力されると電源がオンになり、インジケーターが緑に点灯します。

注意：長時間使用しないときは電源をオフにし、インジケーターが消灯していることを確認してください。

② **パワースイッチ(POWER)**
押すと電源がオンし、もう一度押すとオフします。

③ **フェーズスイッチ(PHASE ■0°／▂180°)**
押し込むと(▂180°)入力信号に対し出力の位相を逆にします。押し戻すと(■0°)同位相になります。

- 通常は■0°で使用しますが、サブウーファーと左右スピーカーの音のつながりが不自然に聞こえる場合に切り換えてみて、自然に聞こえる方に設定してください。

④ **ラインレベルインプット端子 (LINE LEVEL INPUT)**

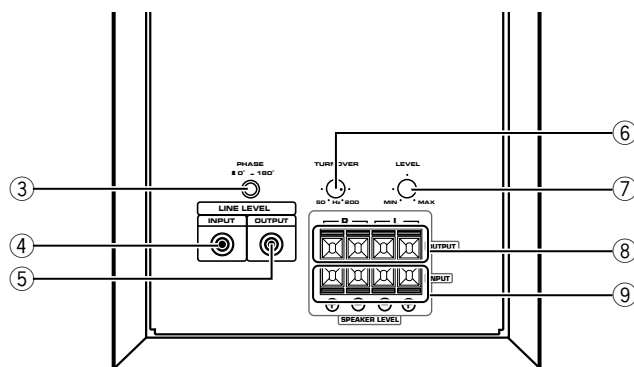
サブウーファー用のプリアウト端子付きのアンプと、付属のRCAピンコードで接続します。

⑤ **ラインレベルアウトプット端子 (LINE LEVEL OUTPUT)**
本機を経由して他の機器に接続するときに使用します。

⑥ **ターンオーバーつまみ(TURNOVER)**
サブウーファーで再生する周波数の上限を設定します。

- 設定の目安

50Hz .... 左右スピーカーの口径が20センチ以上の場合。
100Hz ..... 左右スピーカーの口径が10〜25センチの場合。
200Hz ..... 左右スピーカーの口径が12センチ以下の場合。

後面パネル

⑦**レベルつまみ(LEVEL)**
サブウーファーの音量を設定します。

- 最小(MIN)位置からゆっくりと回してください。
- 本機は独自に重低音のレベルを設定できますので、アンプ側で低音の増強をしないでください。

⑧ **スピーカーレベルアウトプット端子 (SPEAKER LEVEL OUTPUT)**
アンプのスピーカー出力端子を本機のスピーカーレベルインプット端子（⑨）に接続して本機の入力信号とする場合、左右のスピーカーを本機を経由して接続するときは、ここから接続します。

⑨**スピーカーレベルインプット端子 (SPEAKER LEVEL INPUT)**
アンプのスピーカー出力端子と、付属のスピーカーコードで接続します。

使い方

1. パワースイッチ②をオンします。

- 本機の電源コードをアンプのスイッチ連動コンセントに接続したときはオンのままにしておくと、アンプと連動してオン／オフできます。
- アンプと連動できない場合は、アンプの電源をオンしてから本機をオンしてください。電源を切るときは、本機をオフしてから、アンプをオフしてください。

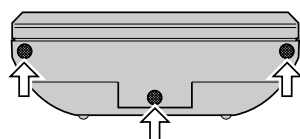
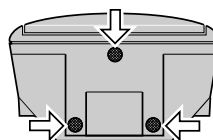
2. アンプを操作して音を出し、左右のスピーカーの音量を調整します。

3. レベルつまみ⑦で低音の強さを調整します。

- 必要に応じてターンオーバーつまみ⑥とフェーズスイッチ③を操作し、更にレベルつまみ⑦で調整してください。

滑り止めパッドの使いかた

滑り止めパッドを紙からはがし、フロント・センター・サラウンドの各スピーカーの底面に3ヵ所づつ貼り付けてください。

センタースピーカーの底面

フロント・サラウンドスピーカーの底面

仕 様

サブウーファー S-W22

アンプ部

実用最大出力(30〜200 Hz, 8 Ω) .... 100 W
入力端子
　LINE LEVEL .... 160 mV/50 kΩ
　SPEAKER LEVEL............... 1.6 V+1.6 V/15 kΩ
位相切換.. 0 ° /180 ° (切換)

スピーカー部

形式 .... バスレフ方式フロアー型、防磁設計(EIAJ)
スピーカー .... 16 cmコーン型
ターンオーバー周波数 .... 50〜200 Hz（連続可変)

電源部・その他

電源 .... AC100 V、50/60 Hz
消費電力.. 63 W
待機時消費電力 .... 1 W
外形寸法190（幅）X 390（高）X 430（奥行）mm
重量 .... 12.6 kg

センタースピーカー

型式密閉式ブックシェルフ型、防磁設計(EIAJ)
スピーカーユニット 1ウェイ方式
　ウーファー ...... 8.7 cmコーン型フルレンジ
公称インピーダンス .... 8 Ω
再生周波数帯域 .... 90〜20,000Hz
出力音圧レベル .... 85 dB/W(1 m)
許容入力
　最大入力(EIAJ) .... 80 W
外形寸法210(幅)×110 (高)×78 (奥行)mm
質量 .... 0.92kg(1個)

フロント・サラウンドスピーカー

型式密閉式ブックシェルフ型、防磁設計(EIAJ)
スピーカーユニット 1ウェイ方式
　ウーファー ...... 8.7 cmコーン型フルレンジ
公称インピーダンス .... 8 Ω
再生周波数帯域 .... 90〜20,000Hz
出力音圧レベル .... 85 dB/W(1 m)
許容入力
　最大入力(EIAJ) .... 80 W
外形寸法 110(幅)×154 (高)×78 (奥行)mm
質量 .... 0.81kg(1個)

付属品

スピーカーコード（3 m） 2
スピーカーコード（5 m） 3
スピーカーコード（10 m） 2
RCAピンコード（3 m） 1
滑り止めパッド 15
コードラベル 10
取扱説明書 1
安全上のご注意 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1

● 本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

故障？　ちょっと調べてください

故障かな？....と思ったらちょっとチェックしてみてください。意外な操作ミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気器具も合わせてお調べください。

症 状	原 因	処 置
電源が入らない。 （パワースイッチを押してもインジケーターが点灯しない。）	● 電源コードが正しく接続されていない。	● プラグを正しく接続してください。
音が出ない。 （インジケーターは点灯する。）	● LEVELつまみがMIN位置になっている。 ● スピーカーコードまたはRCAピンコードの接続が正しくない、または外れている。	● LEVELつまみをゆっくり右に回してください。 ● 接続を確認し、正しく接続してください。
LEVELつまみを回しても音が大きくならない。	● スピーカーコードの極性（本機とアンプの間の接続の＋－）を逆に接続している。	● 極性＋－を確認し、正しく接続してください。
音が歪む。	● 音量が大きすぎる。 ● スピーカーコードで本機を接続した場合に、アンプの出力に余裕がなく、アンプ側で音が歪んでいる。	● LEVELつまみを左に回し、音量を下げてください。 ● アンプ側で低音の増強をしないでください。
発振（大きな音が連続的に出る）する。	● スピーカーコードで本機を接続した場合に、アンプの電源を切ったり、スピーカースイッチをオフにした。 ● 本機の音量が大きすぎる。	● アンプの電源をオンする、またはスピーカースイッチをオンしてください。 ● 本機を先にオフしてから、オフにしてください。 ● LEVELつまみを左に回し、音量を下げてください。
チューナーを聞いたとき雑音が多い。	● AMループアンテナやFMの室内アンテナが本機の近くにある。	● AMやFMのアンテナ(室内用）と本機の距離を離してください。

保証とアフターサービスについて

保証書（別添）について

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
保証期間はご購入から１年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後８年です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談は

お買い上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションをご利用ください。
所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

11ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときには、ご使用を中止し必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 製品名：スピーカーシステム
- 型番：S-HS22
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容の状況（できるだけ詳しく）
- 訪問のご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

■保証期間中は：
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■保証期間が過ぎているときは：
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

お客様ご相談窓口(全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

- 家庭用ｵｰﾃﾞｨｵ／ﾋﾞｼﾞｭｱﾙ製品のお問い合わせ窓口　**0070-800-8181-22**
- カタログのご請求窓口　**0070-800-8181-33**

＜ご注意＞
- ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。予めご了承ください。
- 修理に関しては別添の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご覧ください。

※ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内

http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

⇩

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店またはお近くのパイオニアサービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

パイオニア株式会社　153-8654　東京都目黒区目黒1丁目4番1号